



かけはし

平成25年1月1日

第 52 号

[発 行]

大分大学医学部
附属病院広報誌
発行委員会

新年のご挨拶

附属病院再整備計画について

大分大学医学部附属病院長 野口 隆之

平成25年、新年おめでとうございます。過去10年以上にわたり、政治と経済の混乱や大災害により社会は方向性を失い苦しんでいます。現在、我々の住む社会と自然環境が従来の社会制度のもとで立ち行かなくなつたと思われ、新たな社会の制度設計に今後10年間以上は必要となるのではないかと考えています。

これまで国立大学附属病院が教育・診療・研究で社会に果たしてきた役割は大きいのですが、社会環境の大きな変化で、種々の問題を抱え、今後、本院が発展してゆくためには大学のミッションを見直し、地域のニーズや特性を生かした医育研究機関・特定機能病院として新たな事業展開が必要です。

本院は昭和56年に開設され、既に30年以上が経過し、現在の最新の医療に対応できない部分も増え、平成22年度より、再整備を開始いたしました。

平成23年にがん拠点の機能拡充のためPET・サイクロトロンセンター、平成24年10月にはドクターヘリの基地病院として大分県内全体に対応できる新救命救急センターを開設いたしました。

現在建設中の新病棟は昨年末に西病棟に接続し今年の春に移転、使用開始、この後、東病棟の改築、西病棟の改築を行い、最終的に618床の運営となります。再整備により現在の附属病院の総面積は4万m²から6万m²へと1.5倍になり、病棟の病床数は現在とほぼ同一で、病棟部分の面積は1万7千m²増加するため病室面積の大幅な拡充、個室率25%への大幅な増加、分散型トイレ、医療相談室などの充実を図り、入院患者の皆さんのアメニティの大幅な改善を行い、近代的な病院に生まれ変わります。

また医療スタッフや教育・臨床研究のためのスペースの大幅な増加を図り、平成28年度には大分県内唯一の医育研究機関として機能を充実した病院となる予定です。

外来棟及び中央診療棟の整備は平成25年度から始まります。外来棟は4千m²の増築を行い救命救急センターに隣接し、屋上にドクターヘリの格納庫と外来手術室2室を備え、プライバシー保護などこれまでの多くの問題点が解消できます。中央診療棟は現在10室である手術部は3室の増築で外来手術を含め合計15室を有することになり、内視鏡手術、血管内手術、ロボット手術など手術手技の高度化に対応でき、かつゆとりを持った運営が可能になります。内視鏡診療部、外来化学療法室も現在の数倍の規模となり、物流センター・材料部は統合し、合理的・機能的な病院運営を目指しています。

今回の病院再整備のコンセプトは“人口減少・少子高齢化社会へ向け、大分県内の地域医療を担うため”とし、高度医療の集約化を考えた全県対応型のがん診療拠点、周産母子センター、高度救命救急センター、血液浄化センター、腫瘍化学療法センター、内視鏡センター、総合リハビリテーションセンターの設置を行う予定です。平成28年度には高度医療に関し全県にサービスを提供できる病院として生まれかわり、よりよい医療の提供を目指します。

大分大学医学部附属病院の理念等について

【理念】

本院は、

「患者本位の最良の医療」を基本理念とする。さらに、高度先進医療の開発と提供をおこして、倫理観豊かな医療人を育成し、地域社会の福祉に貢献する。

【基本方針】

本院は、

- 一 患者本位の医療を実践する。
- 一 医療の質及び医療の安全性の向上に努める。
- 一 医学、医療の発展と地域医療の向上に寄与する。
- 一 教育、研究、研修の充実を図る。
- 一 病院の管理・運営の合理化を推進する。

【患者さんの権利】

- ・個人の尊厳が尊重され、良質な医療を公平に受けることができます。
- ・病気、検査、治療などについて、十分な説明を受け、理解した後、治療方法などを自らの意思で同意又は拒否を選択することができます。
- ・自分の診療記録について、本院の規則に則って情報の提供を求めることができます。
- ・診療における個人情報が守られ、プライバシーが最大限尊重されます。

- ・教育実習及び研究の協力者となることを断ることができます。
- ・医療行為の選択にあたっては、他の医療機関を選択することができます。
- ・診断や治療方法について、他の医療者の意見（セカンドオピニオン）を求めるることができます。
- ・身体の不自由な方、外国人の方にも、できる限りの支援をいたします。

【患者さんにまもっていただくこと】

1. 良質な医療を実現するため、医療従事者に対し、患者さん自身の健康の情報を詳しく正確に伝えてください。
2. 納得できる医療を受けるために、検査や治療の内容を十分理解し、不明な点については十分質問し、合意の上でお受けください。
3. 病院内・敷地内での喫煙は禁止されています。
4. 飲酒や他の方々への迷惑行為は、禁止されています。
5. 携帯電話の使用制限をしている場所での使用はご遠慮ください。
6. 病院内の設備や備品は、大切にご使用くださるようお願いします。破損、紛失などの場合は弁償していただくことがあります。
7. 暴力、暴言、セクシャルハラスメント、ストーカー行為があった場合は警察に通報することがあります。

8. 医療費の支払い請求を受けたときは、速やかにお支払いください。
9. 入院時は、
 - 1) 事故防止のため多額の現金や貴重品は、持ち込まないようお願いします。
 - 2) パソコン・DVD・ラジカセ等の電気製品は、持ち込まないようお願いします。
 - 3) 当院での駐車場は、外来患者専用となっておりますので、入院中は駐車場を利用できません。
10. 入院中は、
 - 1) 病院内ではリストバンドを着用してください。
 - 2) 外出・外泊をする場合は、医師・看護師長による外出・外泊許可証をもらってください。

救命救急センター開設

新しい救命救急センター棟が平成24年10月1日に運用開始しました。全国に誇れる機能が満載です。



1階

主に救急外来ですが、救急入口には、2台のドクタークーター（1台は病院間搬送緊急車両）を配置しています。災害時にはトリアージおよび除染区域の設営が迅速に行える設計になっています。棟を取り囲んでいる放射線部とは3か所でアクセス可能で、動線に優れ、すべての放射線診断、治療を効率よく行えます。

2階

24床の救命救急病棟（ICU）であり、臨床検査部と直結しています。

3階

主にスタッフ専用階（医局、カンファレンス室、看護師控室、当直室など）で、手術部と直結しています。

4階

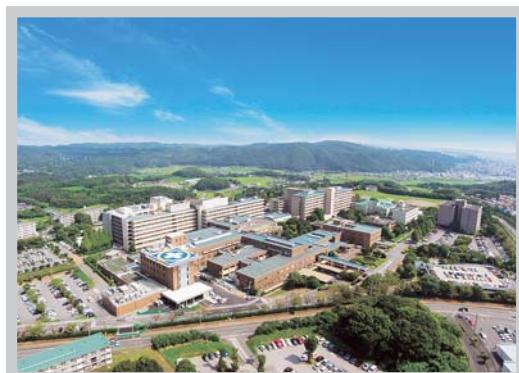
大分県ドクターへリ運航管理室ならびに大小会議室があります。大会議室は、シミュレーション実習、各種救急コースの開催も可能で、災害時には、臨時患者収容場所として利用できます。屋上階のヘリポートには、ドクターへリが駐機しています。

ドクターへリ

ドクターへリは、患者に救命医療を行うことのできる救急専用ヘリコプターです。救命医療に必要な医療機器及び医薬品を装備し、救急専門医や看護師も搭乗します。

へき地、離島、中山間地など医療資源が乏しい地域における救急医療体制の充実、災害時の医療救護活動の充実を図るため、平成24年10月1日、本センターの開設に併せて大分県が導入し運用を開始しました。

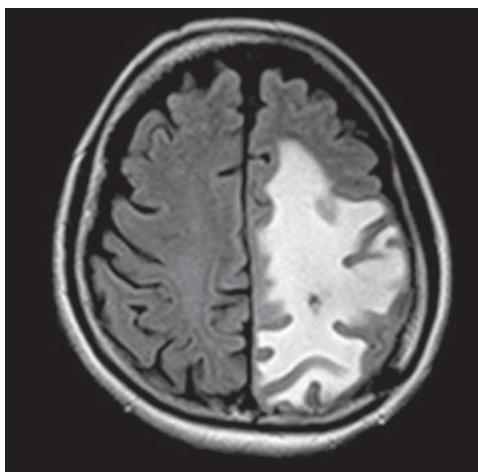
救急現場への到着・治療開始までの時間を大幅に短縮し、現場からの搬送時間も短縮することで救命率の向上、後遺症の軽減を目指しています。



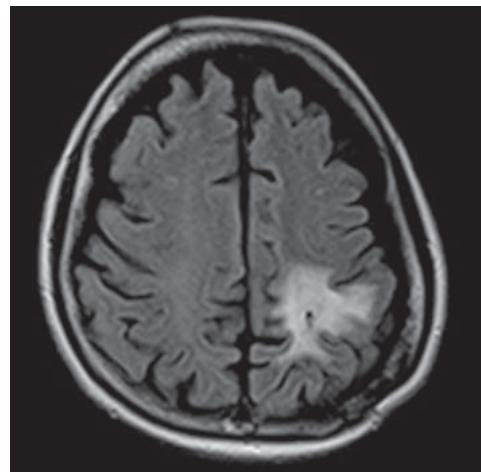
先進医療**神経症状を呈する脳放射線壊死に対する核医学診断及び
ベバシズマブ静脈内投与療法**

以前は、頭蓋内悪性腫瘍の治療はオプションが少なく予後不良でしたが、近年、放射線治療、化学療法の発達により悪性脳腫瘍患者さんの生存期間が延長しています。また放射線治療を複数回受ける患者さんも増え、脳放射線壊死を生じることが多くなってきています。特に治療から数年経つて発症する遅発性の放射線障害では壊死部を中心に強い脳浮腫を呈します。この浮腫を確実に抑えることができる原因是壊死部の切除が最も有効な方法ですが、運動野（手足を動かす部位）や言語野（言葉を聞いたり話したりする部位）など重要な部位に生じた病変では切除が困難なため、新しい治療法の開発が求められていました。脳放射線壊死の原因として壊死部近傍の細胞が、血管内皮増殖因子（Vascular endothelial growth factor: VEGF）を過剰に分泌することがわかりました。この因子は血管新生を誘導するとともに血管の透過性を亢進させ脳浮腫を生じます。そこでその抗体薬であるベバシズマブ（商品名アバスチン）の投与を行うと、神経症状を劇的に改善することがわかつてきました。

放射線壊死と腫瘍を鑑別する方法として、DNAを構成するアミノ酸の一つであるメチオニンをラベルした薬剤を投与しPET検査で判定します。このPET検査で放射線壊死と診断された患者さんを対象に、2週間毎に計6回のベバシズマブを投与します。本先進医療では、最初の3回の投与は、研究費から支払われるため自己負担はわずかですが、残りの3回は自己負担となります。投与中は合併症を生じる可能性があるため、定期的に検査を行ないます。



投与前（左）



投与後（右）

脳浮腫（白い部分）は著明に縮小し、神経症状（麻痺）は改善しました。

本薬剤の投与を行ったほとんどの患者さんで、画像上の改善に伴い、神経症状の劇的な改善が得られています。

先進医療における費用

(ア) 1回目～3回目	1回につき	1,500円
(イ) 4回目～6回目	1回につき	
体重 40kgまで		88,100円
体重 41kg～60kgまで		131,400円
体重 61kg～80kgまで		166,400円
メチオニンPET検査		75,000円

患者さんに想いのひとときを

— 小児科クリスマス会 —

4階西小児科病棟では、入院中の子どもたちに少しでも楽しいひとときを過ごしていただきため、参加を呼びかけ、毎年クリスマス会を開催しています。昨年は、12月21日に小児科病棟の食堂で開催しました。開催前には、子どもたちがクリスマツリーの飾り付けとクリスマス会参加の呼びかけのポスター作りを行いムードを高めました。入院中のAちゃんの「はじめのことば」で会が始まり、医師・看護師・看護学生の寸劇や歌の出し物がありました。またスターバックスさん、ボランティアさんは、7月の七夕会と12月のクリスマス会に毎年ご協力下さっており、今回も楽しい企画をしてくれました。子どもたちも参加してゲームを楽しんだり、寸劇に大笑いしたり、クリスマスソングを歌ったりして楽しい時間を過ごしました。最後に入院治療に頑張っているご褒美に教授サンタさんからプレゼントをもらい大喜びでした。今後も子どもたちが季節感や、普段の病棟の雰囲気とは違った時間を楽しみ「また頑張ろう」という思いを持ってもらえるようなイベントを企画していきたいと考えています。

(文責 4西病棟 鶩尾美知子)



— ふれあいコンサート —

本院では、つらい治療や、退屈な入院生活を頑張っている入院患者さんに少しでも楽しんでもらおうと、年2回、7月と12月に院内の外来ホールで「ふれあいコンサート」を開催しています。

昨年は12月20日に開催しました。外来ホールに、イルミネーション、クリスマツリーを設置し、会場に季節感を取り入れました。学生、職員が、患者さんの車椅子搬送のボランティアを行い、学生サークルと職員バンドが出演し、幅広い年代の方に馴染みのあるクリスマスの曲、歌謡曲や童謡などの曲目を演奏し、和やかな雰囲気に包まれ、終了しました。



(文責 病院企画係)

シリーズ**サービス向上への取組み**

放射線部では、CT、MRをはじめとする各種検査や血管造影下の治療、放射線治療を行っています。検査・治療の高度化に伴い、その件数は日々増加しています。これまでCT検査や放射線治療を受ける患者さんには、通路である廊下のソファーでお待ちいただきご迷惑をおかけしておりました。患者さんの待ち時間の苦痛を少しでも軽減できるよう、昨年度CT待合室、血管造影家族待機室、放射線治療患者待合室を増設いたしました。また、放射線治療について放射線部の看護師とゆっくりお話しができるよう面談室も準備し、治療・看護の説明や相談に応じております。患者さんが安心して検査、治療を受けられるよう、医師・放射線技師・看護師・事務員が一丸となり、これからもより良い治療、介助を目指して努力して参ります。



面談室



放射線治療患者待合室

(文責：放射線部 平山由佳)

シリーズ**病院再整備**

平成22年からスタートした新病棟増築工事期間中は、病室の減少や騒音・振動などで患者さん、ご来院の方々には大変ご迷惑をおかけしましたが、おかげ様で昨年12月末に新病棟が完成しました（右写真）。

新病棟は、患者さんの入院生活が快適になるよう、個室の病室を多く持ち、病室ごとにトイレを設けたり、病棟に相談室を置くなど従来よりも増して様々な工夫が施されています。

今後も東病棟、西病棟、中央診療棟、外来棟の建物増築・改修工事が平成29年3月まで行われる計画です。

引き続き皆様のご協力とご理解の程よろしくお願いします。



トイレ



病室前廊下

(文責 病院再整備推進室)

大分大学医学部附属病院

〒879-5593 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地 TEL 097-549-4411(代)

大分大学医学部附属病院ホームページ <http://www.med.oita-u.ac.jp/hospital/index.html>

1号から51号までの「かけはし」は、医事相談窓口にありますので、遠慮なくお申し付け下さい。また、医学部附属病院ホームページからもご覧いただけます。

